

日本の技術で、世界を紡ぐ。



イング株式会社



本社外観

企業概要

代表取締役社長

渡邊 俊介氏



所在地 (本社)三重県四日市市富田浜元町9-15
TEL:059-364-9121 FAX:059-365-0826

創業 1958年(昭和33年)4月

設立 1977年(昭和52年)10月

資本金 3,000万円

従業員数 27名(2024年8月現在)

事業内容 衣類製造、生活雑貨製造

URL <https://ing1958.com/>

新規事業に挑み続ける原動力が人々のライフスタイルに影響を与え、世界に変革を起こす。

革新の精神を創業から今に繋げる

イング株式会社は、衣類、生活雑貨のOEM・ODM、オリジナルブランドの製造を行う四日市市のアパレルメーカーである。1958年に現社長の祖父にあたる渡邊佐久次氏が大阪で伊勢タオルの間屋として渡久栄産業株式会社を創業。1961年に出身地の四日市市に渡辺佐商店を創立、1977年に株式会社渡辺佐商店を設立した。

1983年、現会長・渡邊廣道氏の社長就任を機に和装品から洋装品の製作へと舵を切り、1988年にはパジャマ専門店を開店。当時なかった「男女ベアのパジャマ」というコンセプトがトレンドとなり、1万円という高価格帯にもかかわらず人気を博し、同社は急成長を遂げる。1989年にイング株式会社へ社名変更し、今年で創業66年目

を迎える。創業時からの革新の精神が今も連綿と続いている。



様々なライフスタイル雑貨

異なるフィールドからの挑戦

現社長の渡邊俊介氏は幼少からサッカーに打ち込み、高校卒業後はプロサッカー選手として単身渡独という異色の経歴を持つ。

帰国後は地元の四日市へ戻るが、サッカー一筋の人生を歩んできた渡邊社長にとってアパレルは未知であり、すぐに家業を継ぐことは考えられなかった。「自分で何かできることはないか」と考えた渡邊社長は22歳でイングの企画営業部門となる有限会社エスディーアイを起業。そして、新

制服を通じて、消費者の環境意識を高める

もう一つの取り組みが再生ポリエステル素材を使用した衣服の開発だ。日本では衣服のリユースやリサイクルが進んでおらず、廃棄された衣服が海外に渡り、多くが埋め立てられているなど、深刻な環境問題となっている。

再生ポリエステルとはペットボトル等を回収し、再び繊維として作り直した素材のこと。近年ではポリエステル素材の古着や端切れを材料にした再生ポリエステルが開発が進められ、「服から服」への再生が可能となった。VIRI-DARI desertaの商品にもこの素材が使われている。

ただ、やはり価格面で購入をためらう消費者がいることも事実だ。そこで、渡邊社長は企業が従業員に貸与する制服に再生ポリエステル素材を使用することを提案。制服を通じて社員や家庭の環境意識を高めることが狙いだ。すでに大手外食チェーンや県内のスーパーマーケットの制服に

自発的に行動せよ 汗をかけた

2014年にイング株式会社代表取締役社長に就任し、現在3つの会社を牽引している渡邊社長。イングでは先代の頃から勤めるベテラン社員とともに若手が活躍している。彼らには「仕事は自分でつかみ取りにいくもの。失敗を恐れずチャレンジしてほしい」と伝える。方、自身のサッカー選手時代の経験から「勝利の裏には長く苦しんだ時期がある」と話し、今やるべきことに一生懸命取り組むよう指導している。

将来的には同社の製造、企画開発、営業といった各部門の独立化が目標だ。渡邊社長は「やる気ある社員にそれぞれの部門を任せたい」と若手の成長を後押しする。

ビジネスとサッカーを通じた地域貢献

「地元で活躍する同世代の社長らと交流する中で、知らなかった三重や四日市の姿が見え、自分が見えてきた」

と話す渡邊社長。ものづくりの中に環境配慮型ビジネスのノウハウを生かすことで、持続可能な社会づくりに貢献できると考えている。身近なところから環境意識を高めてもらえるよう、地元のメーカーやスーパーマーケットと協力し、トイレに流せるプラスチックフリーのウェットティッシュ等の開発に取り組む。サッカーを通じた地域貢献にも意欲的だ。2019年にサッカークラブ「TSV1973四日市」の代表兼総監督に就任。四日市のスポーツ文化と地域社会の成熟を目指す。また、月2回、無料サッカー教室を開催し、時にはプロスポーツ選手を招いた指導を行う。教室には地元の教員も指導者として参加している。

持続可能な未来を目指して

「環境配慮になり、社会貢献になり、人の役に立つビジネスで



「VIRI-DARI GOLF」店舗

編 Ⅱ 会員事業部 中嶋 理可

支店より一言

世界中で古着が大量廃棄され、アパレル業界で大きな問題となっています。それを解決すべく、循環型のビジネスモデルの構築に着手され、2009年、企業ブランドVIRI-DARI deserta（「緑になる砂漠」を立ち上げられました。近年では、再生ポリエステルを使った衣料品を流通業や宿泊施設等へ提案されています。中でもMY Little Loverのakkoonさんのコラボ商品が大好評！ぜひ左記アドレスにアクセスしてみてください。

store.viri-dari.jp



百五銀行 富田支店長
兼 富田駅前支店長
村田 託章



生地裁断作業



縫製作業

企画力と負けん気で掴み取ったチャンス

織物の縫製が中心だったイングだが、受注範囲を拡大するため、渡邊社長は編物機の導入に踏み切る。きっかけは大手アパレルブランドにアプローチした際、3代目のお坊ちゃんという目で見られ悔しい思いをしたこと。

倒産危機からの再起

2008年、同社の売上の半分を占めていた取引先が倒産し、会社は苦境に立たされる。同じ時期にオリジナルブランドの立ち上げも控えていたため、「とても苦しく、眠れず、食事もとれない日々が続いた」と渡邊社長は当時を振り返る。

窮地に手を差し伸べてくれたのが、他の取引先の社長やデザイナーであった。発注契約を結んで

環境に配慮したオリジナルウェアの開発

その頃、有限会社エスディーアイとして取り組み始めたのが「環境配慮型ブランド」である。きっかけは綿花栽培における環境汚染と生産者の農業被害を知ったこと。世界の耕作地面積の約2.5%を占めるに過ぎない綿花の栽培面積で、世界の殺虫剤の16%、農薬の6%以上が利用されているといった報告もある（WWFジャパン公式HPより引用）。

「葉や化学肥料を使わない綿花栽培は大きな手間がかかる。オーガニック Cotton の生産農家の力になりたい」と考えた渡邊社長は、高価で使いづらいと敬遠されていたオーガニック Cotton を使用したメンズブランド「BOTANIK A（ボタニカ）」、「レディースブランド「VIRI-DARI deserta（ヴィリダリデセルタ）」を立ち上げた。使用するオーガニック Cotton の生地生産は国内で、ウェアの縫製はイングの工場で行っている。



「VIRI-DARI DESERTA」ゴルフウェア



「VIRI-DARI DESERTA」パジャマ